



平成20年9月28日
地域発 元気づくり支援金 事例発表会

飯網高原イヤー実行委員会 / NPO法人飯網高原よっこらしょ



訪問者も住民も一緒にセルフビルド！
～ 飯網高原ビジターセンター（仮称）整備事業

飯網高原イヤーの象徴として、「飯網高原ビジターセンター」を訪問者と住民・観光事業者が協働でセルフビルドすることにより、訪問者への観光・地域情報の発信拠点と住民との交流拠点を創っています。

1 飯網高原イヤーについて

【基本コンセプト】

飯網高原イヤーを推進するのは、観光業者をふくめた地元の住民です。良い地域には、人が集まり、観光客が集まり、賑わいが賑わいを呼ぶ。そのような相乗効果・波及効果をめざしたキャンペーン

新しい飯網高原のイメージを、多くの人に伝えること。
飯網高原のブランド化では、「もの」や「こと」を結び、新しいイメージを創っていくという「ひと」が主役です。

“みんなでつくる飯網高原イヤー”

観光業者

地域住民

住民パワー、お隣さんパワー、観光パワー、住民が元気になれば、観光が活性化する地域が一体となって繰り広げる新しい観光キャンペーンのカタチ

飯網高原ならではの独自性を主張できること。気軽に訪れたい魅力を発信すること。今までにはない、観光スタイルを提示する言葉。

オ ト ナ リ



地域住民のチカラ「隣組」「おとなりさん」という意味と、御開帳を控えた善光寺の隣り、足を伸ばして、すぐ訪問できる「隣の高原」であること。さらに、高原の爽やかな風の音、人々が集い語り歌う音、モノをつくっている音など、いつも「音」が「鳴」っている「音鳴り」という意味を込めたタイトルです。

Ecology
自然・環境・感動

- ・杜(森)の講座、自然体験型イベント
- ・子供たちの教育に関するイベント

Agriculture
農業体験

- ・農作業体験
- ・援農ボランティアのコーディネート

Art & Music
文化の創造

- ・クラフトや絵画などギャラリー回遊展
- ・ペンションやレストランで毎月ミニライブ開催
- ・飯網高原のテーマソングを募集

Foods
食の発見

- ・飯網高原ならではの「食」を創出
- ・天狗の麦飯、スイーツなど名物料理を開発

Sports
スポーツ祭り

- ・飯網高原健康マラソン大会開催に合わせて各種スポーツイベントを誘致

2 飯綱高原ビジターセンター整備事業の概要

【実施主体】

NPO法人飯綱高原よこらしよ

- * 飯綱高原の地域づくり法人として、施設整備、建築後の維持管理を担当
- * 飯綱高原イヤー実行委員会と一体的に本事業を遂行

【飯綱高原ビジターセンターってどんなところ】

飯綱高原を訪れた方の拠点として、誰でも気軽に立ち寄ることのできるログハウス。観光情報の提供だけでなく、飯綱高原で実施される各種体験や交流イベントの窓口として機能。さらに、このハウス内でちょっとしたイベントを開催したり、アーティストの作品を展示したり、いろいろな活用を計画。

(1) 建設地

大座法師池小天狗の森駐車場入口 ロータリー(地権者:長野市)

(2) 規模・構造

木造(ログハウス、ポスト&ビーム工法)

1階建 99.37㎡ (1階69.56㎡ 作業場 29.81㎡)

- ・ 観光ガイドスペース(観光案内所移転) + 多目的スペース(ホール) あらゆる使用目的に広く対応できるシンプルな構造とする。
- ・ 玄関前デッキ
“内”と“外”をつなぐ空間として、縁側の、オープンカフェ的な利用、体験スペース等に使用

(3) 費用

7,500千円 * うち、県元気づくり支援金 5,000千円

(4) ビジターセンターの基本コンセプト

ア セルフビルドを通じた交流と愛着の創出

- ・ ログハウスをセルフビルド。訪問者が建設に参加、訪問者と住民の「協働の施設作り」の場を設定
- ・ 飯綱高原イヤーのモニュメント
非日常体験・感動(達成感)の提供、交流と愛着の創出により、訪問意向、滞在意向、居住意向の高いリピーター確保を目指す。

イ 多面的な情報受発信機能と窓口ワンストップ化

- ・ 対面による観光案内所としての機能の拡充
- ・ 飯綱高原及びその周辺地域の写真・映像の提供
- ・ 飯綱地区、市内NPO等の活動紹介
- ・ アーティスト作品の展示

ウ 体験の場・くつろぎの場の提供

- ・ 多目的スペースにおける体験・交流イベントの実施
- ・ エコトレッキングなどのターミナルとして活用
- ・ 環境を活かしたくつろぎの場の提供
- ・ 一般の方々の手作り品等の委託販売

エ “森づくり”のメッセージを持続的に発信するシンボル

- ・ 柱・梁に飯綱高原地域のカラマツを利用、木材の「地産地消」
- ・ 施設部材などの材料に間伐材を有効利用

【なぜ、みんなで作ることになったの？】

訪問者にも地域住民にも開放して利用できるようになるログハウス。使い方は使う人のアイデア次第。そんな建物だから、みんなに愛されるようなスペースになってほしい。それなら、つくる段階から関わってもらえれば、愛着がわくんじゃないか。自分の手で家をつくるなんて、めったにできない体験。よしっ、みんなで作ろうよ。というわけで、「みんなで作てようプロジェクト」を実施

【現在までの実施状況】

- 5月3日 ビジターセンター棟木 伐採
 ・ 飯綱高原知足庵敷地林
 ・ 参加者 20名



- 5月17日 柱皮むき体験、「夢」を棟木に寄せ書き
 ・ 飯綱高原「杜(森)の講座」'08開講式 & 「地域づくりフォーラム」にて
 ・ 参加者 150名

- 6月27日 移動製材機による梁・柱・壁材の製材
 ~7月6日 ・ 参加者 50名



7月16日 (基礎工事)
~ 8月1日



8月 7日 上棟 参加者9人



8月14日 腰壁積上げ、壁板かんながけ、断熱材貼り付け、内壁板の貼り付け
~ 17日 参加者35人



8月23・24日 外壁板の貼り付け
参加者15人

9月13・14日 床板のかんながけ
参加者20人



【事業効果】

- ・ 協働の施設づくりを通じて、住民と訪問者の交流を促進することができる。
- ・ 施設完成後、飯網高原観光協会が運営する観光案内所を移設し、多様な観光・地域情報をワンストップで訪問者に提供することにより、顧客満足度を向上させ、訪問者の増、リピーターの増が望める。
- ・ 地域一体となって主体的にキャンペーンを展開することにより、住民の地域資源等の再発見と誇り・愛着の醸成が図られ、今後の地域活動にも活気をもたらす。

NPO法人飯網高原よっこらしょ
代表理事 林部 陟 026(239)0102

飯網高原イヤー実行委員会
運営本部長兼ビジターセンター整備チーフ
志村 雅由 026(239)2315